

Ⅲ 研修主題について

研修主題及び志教育の三つの視点を次のように捉え研修を推進する。

「自分の思いや考えを進んで表現する」とは？

- イ 言葉や文，叙述内容，表現の工夫などを手掛かりに，登場人物の心情や情景を豊かに想像し，要約や要旨を短くまとめ筆者の主張に対する自分の思いや考えを明確にすること。
- ロ 収集した情報や話合いを基に，自分の思いや考え，意見，感想を見つめ，自分の言葉で表現すること。
- ハ 互いの思いや考えを発表し合い，自分の読み取りを振り返り，自分の思いや考えを広げたり深めたりすること。
- ニ 発表を通して，比較しながら聞き，共通点や相違点，良さなどを気付き，発表し合う楽しさや喜びを味わうこと。

上記の「自分の思いや考えを進んで表現する」ことに係る押えは，学習指導要領の国語科の目標及び内容に述べられている《「話すこと・聞くこと」の「話し合うことに関する指導事項」，「書くこと」の「交流に関する指導事項」，「読むこと」の「自分の考えの形成及び交流に関する指導事項」》を参照している。特に，「読むこと」に重点を置き，解説編も参照する。

各学年における各領域の目標「C読むこと」

	第1学年及び第2学年	第3学年及び第4学年	第5学年及び第6学年
C読むこと	(3) <u>書かれている事柄の順序や場面の様子などに気付いたり，想像を広げたりしながら読む能力を身に付けさせるとともに，楽しんで読書しようとする態度を育てる。</u>	(3) 目的に応じ，内容の中心をとらえたり段落相互の関係を考えたりしながら読む能力を身に付けさせるとともに，幅広く読書しようとする態度を育てる。	(3) 目的に応じ，内容や要旨をとらえながら読む能力を身に付けさせるとともに， <u>読書を通して考えを広げたり深めたりしようとする態度を育てる。</u>

《(3)「C読むこと」の指導事項は？》

内容は，次のように構成されている。

- 音読に関する指導事項
- 文学的な文章の解釈に関する指導事項
- 効果的な読み方に関する指導事項
- 自分の考えの形成及び交流に関する指導事項
- 説明的な文章の解釈に関する指導事項
- 目的に応じた読書に関する指導事項

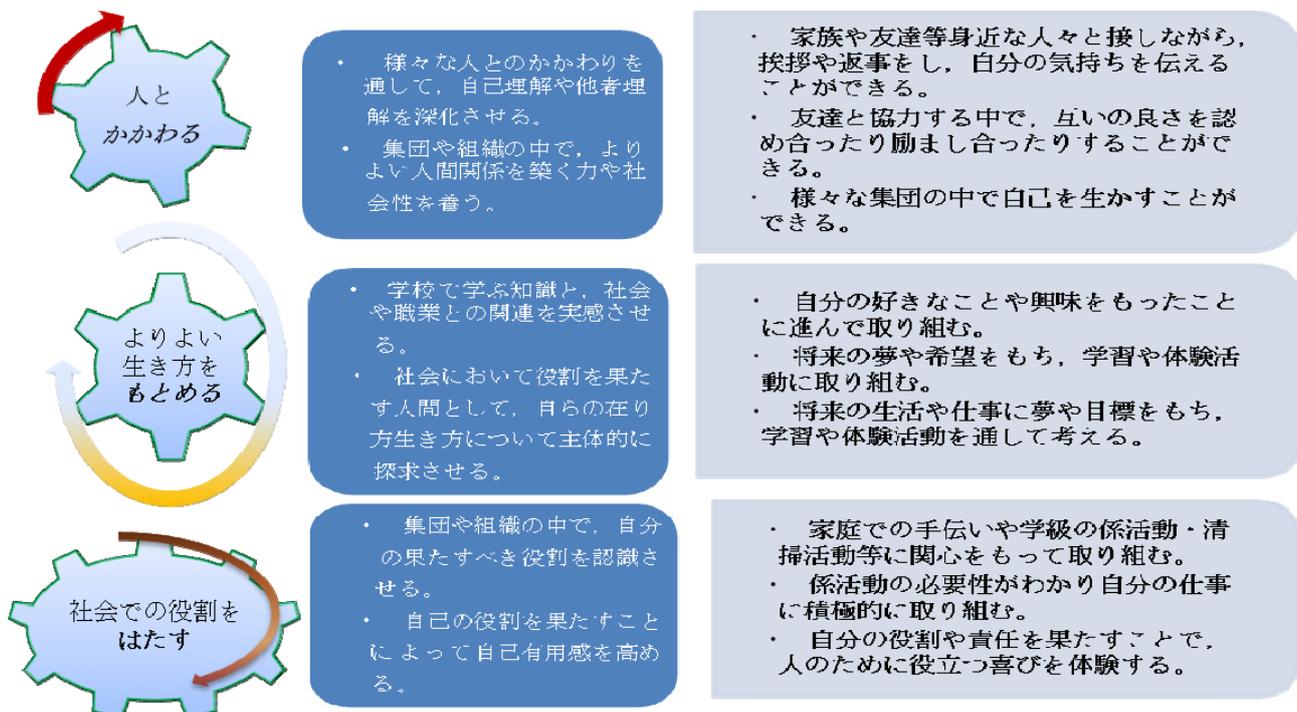
「A話すこと，聞くこと，話し合うことに関する指導事項，

B書くことの指導事項に関する交流に関する指導事項，

C読むことに関する自分の考えの形成及び交流に関する指導事項」

領域	指導事項	第1学年及び第2学年	第3学年及び第4学年	第5学年及び第6学年
聞話 くす こと と	事項 に 関 し 合 う こ と 指 導	オ 互いの話を集中して聞き、話題に沿って話し合うこと。	オ 互いの考えの共通点や相違点を考え、司会や提案などの役割を果たしながら、進行に沿って話し合うこと。	オ 互いの立場や意図をはっきりさせながら、計画的に話し合うこと。
書 く こ と	事項 交 流 に 関 する 指 導	オ 書いたものを読み合い、よいところを見つけて感想を伝え合うこと。	カ 書いたものを発表し合い、書き手の考えの明確さなどについて意見を述べ合うこと。	カ 書いたものを発表し合い、表現の仕方に着目して助言し合うこと。
読 む こ と	自 分 の 考 え の 形 成 及 び 交 流 に 関 する 指 導 事項	エ <u>文章の中の大事な言葉や文を書き抜くこと。</u> オ <u>文章の内容と自分の経験とを結び付けて、自分の思いや考えをまとめ、発表し合うこと。</u>	エ <u>目的や必要に応じて、文書の要点や細かい点に注意しながら読み、文章などを引用したり要約したりすること。</u> オ <u>文章を読んで考えたことを発表し合い、一人一人の感じ方について違いにあることに気付くこと。</u>	オ <u>本や文章を読んで考えたことを発表し合い、自分の考えを広げたり深めたりすること。</u>

「志教育の三つの視点」については？
(みやぎの志教育から参照)



「小学校段階における取組について」

宮城県の各種教育の重点に述べられている「みやぎの志教育」における小学校段階における取組の考え方は、以下のとおり記載されている。

小学校段階は、将来の社会的・職業的自立に向けて、その基盤となる能力・態度を育てる重要な時期である。そこで、人や社会とかかわる体験活動を身近なところから徐々に広げ、自分の役割を積極的に果そうとする態度を育みながら、児童の自己有用感を高め、学習や生活への意欲を向上させていく必要がある。

(1) 低学年

身の回りの人々や出来事に興味・関心をもち始める時期であることから、係、清掃などの日常行動や、飼育・栽培などの学習活動を通して、人とかかわることや、働いたり活動したりすることの楽しさを体感させる機会を多く設定していく。

(2) 中学年

人間関係を築いたり、自発的な活動への意欲が高まったりする時期であることから、友達とかかわりを深め、自分のよさや役割を自覚し、自信をもたせるとともに、各教科での地域や施設の見学などにより、普段の生活と自分の将来の生き方との関連に気付かせるようにする。

(3) 高学年

自分の役割や責任を果たすことで、みんなのために役立つ喜びを体得したり、社会と自己とかかわりから夢や希望をふくらませたりする時期であることから、委員会活動やボランティア活動等を通して自分の役割や責任を果たそうとする態度を育て、地域社会とかかわる喜びや楽しさを実感させるようにするとともに、各教科の学習や生活が自分の将来の生き方と関連していることに気付かせるようにする。

上記に記載した「みやぎの志教育の三つの視点」を授業展開の流れの中で「教員と児童との交流の場面で、児童相互の交流の場面で」教員が「かかわる・もとめる・はたす」の視点で意識して話し掛けたり、問い掛けたり発問したり工夫して考える。

そのことによって、児童の思考に「より具体的なものの考え方や見方」を養うことができ、少しでも自分の思いや考えを進んで表現できるようになると考える。

また、具体的な志教育の三つの視点を意識するための方向性については、研修の視点で記述する。

IV 研修目標

ミニ授業研修体制を推進し、授業展開に志教育の視点を意識した国語科の授業作りを通して、自分の思いや考えを進んで表現する児童の育成の在り方を探究する。

- ◎ 教員の授業力の向上
- ◎ 教員の児童理解力の向上

を図ることによって、研修主題に迫ることができるのではないかと考えて設定した。

V 研修主題に係る児童の実態

略

VI 育ってほしい、育てたい子供の姿

育ってほしい、育てたい子供の姿	
*	*人とのかかわりを大切に*
低学年部	<ul style="list-style-type: none"> ○ 文章の内容と自分の経験とを結び付けて自分の思いや考えをまとめ、はっきり話したり、友達の考えを最後まで聞いたりすることができる子供 ○ 教員とのかかわりや友達とのかかわりに喜びを感じる子供
*	○ 朝の会や帰りの会等で自分の気持ちを先生や友達に伝えることができる子供
*	*人とのかかわりとよりよい生き方をもとめて*
中学年部	<ul style="list-style-type: none"> ○ 文章を読んで考えたことを分かりやすく話したり、友達の話の中心に気を付けて聞いたりして、一人一人の感じ方や思いの違いに気付くことができる子供 ○ 教員とのかかわりや友達とのかかわりを通して、進んで自分の思いや考えを発表することによって、さらによりよい思いや考えを求めようとする子供
*	○ 学級活動等で自分の意見や考えを友達に伝え、話し合うことができる子供
*	*人とのかかわりとよりよい生き方をもとめながら社会での役割をはたす*
高学年部	<ul style="list-style-type: none"> ○ 文章を読んで考えたことや思ったことに根拠を明確にして発表し合い、自分の考えを広げたり深めたりすることができる子供 ○ 教員とのかかわりや隣席同士の友達とのかかわりや小グループ内でのかかわりを通して、さらによりよい思いや考えを求め、友達から学級全体へ、学校全体へ、家族へと思いや考えを広め、一人の人間としての役割を果たそうとする子供
*	○ 児童会活動等で自分の意見や考えを友達に伝え、より好ましい学校生活を意識できる子供
*	*人とのかかわりとよりよい生き方をもとめて*
特別支援部	<ul style="list-style-type: none"> ○ <u>文章を読んで考えたことを自分なりのことばで話したり、相手の話の中の中心に気を付けて聞いたりして、一人一人の感じ方の違いに気付くことができる子供</u> ○ <u>主に教員とのかかわりを通して、自分の思いや考えを発表することによって、さらによりよい思いや考えを求めようとする子供</u>
*	○ <u>朝の会や帰りの会等で自分の意見や考えを担任に伝え、話し合うことができる子供</u>